

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	21-075	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol Use and Its Related Psychosocial Effects during the Prolonged COVID-19 Pandemic in Japan: A Cross-Sectional Survey COVID-19 の日本における長期流行期間中のアルコール摂取とその心理社会的影響		
<b>執筆者</b>		
Sugaya N, Yamamoto T, Suzuki N, Uchiumi C.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Environ Res Public Health. 2021 Dec 17;18(24):13318.doi: 10.3390/ijerph182413318.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
COVID-19, 日本, アルコール摂取, メンタルヘルス, AUDIT		34948939
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的:</b> COVID-19 のパンデミックの長期化と度重なる非常事態宣言は、日本人の心理状態を著しく悪化させる可能性があり、これらの長期的なストレス条件と行動制限は、日本人のアルコール使用に影響を与える可能性がある。そこで、COVID-19 パンデミックの長期化におけるアルコール使用とそれに関連する心理社会的・人口動態の特徴を調べるために、最初の緊急事態宣言から約1年後に日本人を対象とした大規模調査を実施した。</p> <p><b>方法:</b> 調査は2021年6月15日から20日にかけてインターネットで実施し、対象は東京、愛知、大阪、京都、兵庫、福岡に居住する20歳以上の住民11,427人とした(女性48.5%, 48.8±13.3歳)。参加者の年齢、性別、雇用形態、配偶者の有無、子供の有無、世帯年収、アルコール使用(Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT))、心理的苦痛(K6)、うつ(PHQ-9)・不安症状(GAD-7)、孤独感(UCLA-LS3, LSNS-6)などの情報を収集した。</p> <p><b>結果:</b> AUDIT スコアによる分類では、危険な使用群が男性14.7%、女性6.4%、潜在的アルコール症群が、男性10.3%、女性4.0%で、潜在的アルコール依存症の有病率は、これまでに報告されたものよりも高かった。この傾向は、特に女性で顕著であった。危険な使用に関連する変数には、男性、世帯年収が高い、年齢が高い、LSNS-6 得点が高い、運動、健康的な食習慣、COVID-19 の利他的予防行動、仕事・学業が困難であるなどであった。潜在的なアルコール依存と有意に関連する変数として、GAD-7 および PHQ-9 スコアの高さ、健康的な睡眠習慣、身近な人とのオンライン交流、身近な人との関係の悪化、COVID-19 関連の不安の低さ、COVID-19 に関連する不眠が含まれていた。</p> <p><b>結論:</b> 潜在的なアルコール依存症の有無は、心理状態、特にうつ病と不安の悪化と関連していた。パンデミックによる日常生活の様々な困難も潜在的アルコール依存症の有無と関連しており、潜在的アルコール依存症のある人は、これらの問題に対する支援が必要であると思われる。</p>		